

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

会 議 名	令和4年度第3回江差町地域公共交通活性化協議会
開催日時	令和4年12月23日（金） 13時30分～15時00分
開催場所	江差町役場1階 保健センター（集団指導室）
出席者	委 員：出席12名、欠席5名 代理出席者：1名 同行者：1名 事務局：2名 報道関係者：2名
議事次第	1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 議 題 （1）江差マース実証実験における乗車料金の変更に関する報告について （2）江差町地域公共交通計画（案）における重点課題及び基本目標等に関する協議について （3）その他 4. 閉 会
配付資料	別紙のとおり
議事要旨	1. 開 会 ■ 事務局にて進行（委員出席者が過半数を超過しているため会議成立宣言）。 2. 会長挨拶 ◇ 本日は、年末のお忙しい中ご出席いただき、心より感謝・御礼申し上げます。 ◇ 本日の協議会は、今年度3回目となる。 ◇ 過去2回は急な用務により出席できなかったこととお詫び申し上げます。 ◇ 過去の内容は事務局から共有を受けている。 ◇ さて、本日の会議では、現在実施しております「江差マース」の実証実験に関する報告の後、昨年度から策定に向けて取り組んできておりました「地域公共交通計画」の方向性についてお諮りするものが主題となる。 ◇ 本日ご出席の皆様におかれましては、限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見をいただけたらと思うので、よろしくお願いします。 3. 議 題 （1）江差マース実証実験における乗車料金の変更に関する報告 ■ 事務局から「資料1」及び「令和4年度第2回江差町地域公共交通活性化協議会 資料4」により説明。 ◇ 10月～11月に南部の上町・下町地域を対象に実施した実証実験の結果として、登録者数86人に対して、利用した実人数は23人、延べ利用者数は87人という結果。 ◇ 利用者23人のうち、16人が無料期間（10/4～10/8）での利用を経て有料化以降も利用したが、一方で有料化以降からの利用者数は伸びなかった。 ◇ 公共交通利用者の大半は運転免許及び自家用車を所有していない後期高齢者であるため、将来的な実装化に向けては、スマホアプリからの予約といったデジタル機器のサービス改善だけでなく、高齢者でも利用者しやすいオペレーターによる電話予約の整備などの検討が求められるものと分析。 ◇ 対象エリアを町全域に拡大した12月以降について、登録者数は上昇傾向で、住民の関心度も高い状況。 ◇ スマホ教室や体験試乗会の実施により、さらなる登録者・利用者の拡大へとつなげていく。 ◇ 有償運行から無償運行へ方針転換したのは、前段の2か月間の結果を踏まえ、運転免許及び自家用車の有無に関わらず、まずは一人でも多くの住民に体験いただき、利用者数を増やしていくことで、潜在需要の掘り起こしや理解度の向上を図ることを優先したもの。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

- ◇ 無料化に伴う住民への周知を優先させていただいたため、無料化への転換が結果として、協議会に対し事後報告となってしまったことをお詫びする。
- ◇ 実証終了後に実施予定のアンケート調査や関係者へのヒアリングを通して、サービス面及び運賃妥当性等の検証を進めていく考え。

■ 各委員から次のとおり意見あり。

①－１（函館運輸支局 笹野首席運輸企画専門官・酒井委員代理者）

- ◇ こういった実証実験では、当初有料だったものを無料にすることは、全国的にはよくあるケースであるが、その中において 12/20 時点での登録者 160 人の中で、高齢者人口のカバー率としてはどの程度になるか。
- ◇ 12 月に入って登録者数が伸びてきているが、10 月～11 月の実証実験で登録者数が伸びなかった原因を事務局側ではどのように分析されているか。
- ◇ 登録者のうち 90 代の方々が 2 人登録されており、2 人とも利用されている結果が見受けられるが、80 代の方々が 16 人の登録者のうち結果として 2 人登録されていなかったり、70 代の方々が 23 人の登録者のうち結果として 10 人しか登録されていなかったりなど、登録していても実際に利用されていない理由が配車予約の方法によるものだけなのか疑問に感じるがどうか。

①－２（事務局）

- ◇ 人口のカバー率という観点では、現在町内人口が約 7 千人でそのうち 65 歳以上の高齢化率は約 4 割であることを考えると、全体の割合としては 1 割に満たない状況。
- ◇ 公共交通の利用者の多くは運転免許及び自家用車を所有していない方々であるが、自家用車の所有率としては、ほぼ一家に一台の状況で、特に北部については比較的自家用車を持つ世帯の多い農家の割合が多い。
- ◇ 昨年度に実施したアンケート調査の結果の中でも、80 歳を過ぎても運転を続けると回答した割合が非常に多かった。
- ◇ 全体の割合の中で、どのぐらいの割合の方々が本当に公共交通を必要としているのか、まだまだ見えてきていない部分も正直あるので、今回の実証実験を通して潜在需要者の掘り起こしも必要な要素。
- ◇ 一部の住民からの聞き取りでは、町広報誌を通して取り組み自体の存在は知っていて、一度利用してみたいという思いはよく聞かれるが、スマホアプリや携帯電話の自動音声を使った予約方法に戸惑われている方々多い状況と認識。
- ◇ 登録者全体で実際の利用者数が伸び悩んだ原因についてであるが、まず、昨年度の 2 月に初めて実証実験を実施した時に見えてきたのは、1 カ月という限られた期間では住民に対して十分に取り組みが広まりきらなかったこともあり、今回は実証期間をトータルで 4 カ月間とした。
- ◇ 10 月～11 月においては、原因は一つ二つではないが、一つ挙げるとすれば、登録をしたら必ず利用しなければならないと思っている方々も一定数いたように、登録方法等が十分に伝わりきらなかった部分があり、また、登録をしても自分に使いこなせるだろうかという不安感から、利用者数の増加に結び付かなかったものと推察。
- ◇ 住民説明会を通して住民への周知は行っていたが、それだけでは伝わりきらなかった部分もあったので、12 月以降については住民説明会だけでなく、町内会を通して地域の集会施設でお集まりいただき、試乗体験会や個別に説明する機会を細めにとらせていただいている。
- ◇ 来年の 1 月末まで無料としたので、試乗体験会などの機会は今後も継続的に実施させていただく予定。

議事要旨

◇ 70代や80代の登録者についてであるが、まず90代の方々については親族の方が代わりに登録・予約をしており、結果として本人だけで予約までの作業をした訳ではなく、周囲のサポートの中で利用したものと記憶。

◇ 登録した高齢者の大半はスマートフォンを持っていないことが多く、その場合、10月～11月の実証期間では自動音声電話による方法となり職員から操作方法等をお教えしたが、実際に本人が自分だけで使用してみようという流れまで十分に繋がれなかったため、高齢者による利用が伸び悩んだものと推察。

①-3 (函館運輸支局 笹野首席運輸企画専門官・酒井委員代理者)

◇ こういうサービスについては、本当に必要としている方々は、あれば利用する。

◇ あるに越したことはないという方々の意見までまともに聞いてしまうと、公共交通の理想というようなものをつくらなければならない、本当に必要とされている方々に対するサービスが出来なくなってしまうため、その部分に注意していただきたいと思う。

①-4 (田畑会長)

◇ おっしゃるとおりで、今段階から申し上げるのは変だが、採算性を重視して運行する状況をつくるのは、まず難しいことが予想される場所。

◇ 高齢者だけではないが、買い物など荷物を持って移動する方々に対する戸口から戸口までといった移動サービスの利用度をいかに高めていくかという事になってくる。

◇ 実証実験をいつまでも続けていくという話にはならないので、短期間ではあるが今回の実証実験の結果からしっかりと分析を進めていく必要がある。

②-1 (小笠原委員)

◇ 私自身も実際に説明会に行き、まずは利用してみようということで登録も行ったが、その登録をするきっかけとなる行事が少なかったように思う。

◇ 実証実験の段階までに、登録方法などを教える機会の回数が少なかった。

◇ 登録者の中で、免許証を持っていて登録した人はどの程度いたのか。

②-2 (事務局)

◇ 行事が少なかったというご指摘はおっしゃるとおりであり、公共交通は目的があった上でのものであることから、利用に転じさせるための行事の仕掛けが少なかったことが10月～11月の大きな反省点。

◇ 12月以降については、試乗体験会などの機会をできるだけつくっている状況で、今後も定期的の実施していきたいと考えている。

◇ まずは登録をしていただき予約をして実際に乗車いただくという一連の流れを体験していただく機会を今後もつくっていききたい。

◇ 試乗体験会などへの参加促進は、どうしても役場からの周知だけでは限界があるので、町内会様や老人クラブ様といったところのお力を今後もいただきながら取り組んでまいりたい。

◇ 運転免許の観点については、正確な数値は持ち合わせていないが、事前の登録時に一部住民から直接お伺いする限りでは、運転免許や自家用車を持っていない方々が大半を占めている状況であると推察。

◇ 登録者の大半は今まさに公共交通を必要としている方々であるが、一方で今は自家用車を持っているが、5年後10年後に運転免許や自家用車を手放すかもしれない方々についても、将来を見据えてまずは一度体験していただきたいということは役場から住民に対して促しており、実際にそういった目的で登録し利用した方の存在も一部確認している。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

③－１（小野寺委員）

- ◇ 実際に試乗体験会などの機会に参加させていただいた身として、NPOの理事長としての立場よりかは、南が丘自治会の会長としての発言をさせていただく。
- ◇ 南が丘は他の地域と比較すると年齢構成は若いかもしれないが、道職員などの町外から転勤により来られた方々を除けば高齢者が非常に多く、親戚などの身寄りがない人、つまりは運転ができなくなるとお手上げ状態になる方々が多い。
- ◇ 現在、地域では見守り活動などを行っており、自治会の役員会において「江差マース」のことを議題として挙げ、自治会としても可能な限り取り組んでいこうと位置付けてきた。
- ◇ 買い物に行けない、床屋さんに行けない、役場に行けないなどの部分において、これからはもっと大変だと思われる方々の顔と名前が分かる実態であるため、説明会や試乗会の開催時にも出来る限りそういった方々に声を掛け、歩くことが困難な場合には送り迎えをするなどして参加を促してきた。
- ◇ このような取り組みにおいては、こういったことを繰り返さないと中々広まらないというのが実感。
- ◇ １回やったからそれでもう大丈夫ということではなく、よく分からないから乗ってみたいけれどもまだ乗っていない人もまだまだいる状況。
- ◇ 事務局からも発言があったが、今後も細目に試乗会のようなことをやっていただき、回数を重ねていく、覚えてもらう、気軽にできる、そういった側面の中で改善策を出していくことが必要かと思う。
- ◇ 自家用車を持っていたとしても、まずは覚えてみよう、乗ってみようということが大切で、周囲の方々に声を掛けようにも乗ってみななければ分からないので、自治会役員にも利用するよう心掛けています。
- ◇ 試乗してみて感動したことがあり、一緒に相乗りした人が足の不自由な方だったのだが、足の踏み台を用意していただいたり、玄関まで無事に辿り着くようが心配そうに手伝ったりと、実際の実装段階でどこまで運転手が対応できるかが課題ではある中で、「江差マース」の運転手が一生懸命だった。
- ◇ 運転手からは、頑張ってもらいたい、江差町のために皆で成功させなければどうなるんだということもおっしゃられていたので、そういう点では盛り上げていくことが成功への道になっていくと思う。

③－２（田畑会長）

- ◇ 実際に利用させていただいた自治会長の立場としてのご発言を包含して申し上げると、本当は利用させたい人に対して中々伝わっていない中で、要援護者ということで例えるならば、やはり１軒ずつ回るのは難しいため、小野寺委員がおっしゃられたように町内会の役員の皆様を中心にご利用いただき、それをきっかけに普段は自家用車を運転してる方や自分の子供に送迎をお願いしている方にも広がるよう、声掛けであったりチラシを配布していただくといった拡大の部分については今後も検討を重ねていきたいと思うので、町内会・自治会様、老人クラブ様などにも役割を担っていただきながら利用拡大に結びつけていけたらと考える。

（２）江差町地域公共交通計画（案）における重点課題及び基本目標等に関する協議

■ 事務局から「資料２」により説明。

- ◇ ２ページには、江差町地域公共交通計画の構成内容を記載しており、章ごとに地域公共交通の現状、課題、ニーズ、将来の方向性などをまとめていく構成を予定。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

- ◇ 3 ページには、関連する国の法令や町総合計画を最上位とする関連計画との相互関係について記載しており、「まちづくりと一体となった地域の足づくり」を中心にした今後の連携策をまとめている。
- ◇ 4 ページには、地域概況から見える課題やニーズについて記載しており、「地理的条件を踏まえた最適な交通モードの確保」を念頭に、公共交通のターゲットをもとにした今後必要となる対応策をまとめている。
- ◇ 5 ページには、実施してきた各種調査結果から見える地域公共交通のニーズについて記載しており、ニーズごとの目標や対応策をまとめている。
- ◇ 6 ページには、計画期間内で解決すべき5つの重点課題について記載しており、関連する対応策とセットでまとめている。
- ◇ 7 ページには、計画内で設定予定としている計画区域及び計画期間についてまとめている。
- ◇ 8 ページには、計画における基本理念「持続可能な暮らしを未来へ紡ぎ、みんなでつくる自分たちごとの交通 ~~政策~~」について記載しており、設定する趣旨をまとめている。
- ◇ 9 ページには、重点課題を踏まえた4つの基本目標について記載しており、基本目標ごとに想定する事業体系をまとめている。
- ◇ 10～11 ページには、参考資料として「江差マース」の概要やこれまでの取り組みについて記載している。

■ 各委員から次のとおり意見あり。

①-1 (小野寺委員)

- ◇ 計画の概要版と言いながらも、ほとんどが見出しだけというか、項目だけの記載であるため、もう少し文字が付かないと意見のしようがないというのが率直な感想。
- ◇ 短い時間の中、今年度中という期日が決まっている中で致し方ない部分もあるかと思うが、その中で気になった項目として、まず4ページの「民間バス路線の抜本的な見直し」で、現在「江差マース」を進めようとしている大前提は、地域の高齢者等は買い物や通院などが大変であり、路線バスは定時定路線のため自宅までということにはならないためであるかと思う。
- ◇ 路線バスと「江差マース」の関係はある意味密接に関わってくる中で、ここという「抜本的な見直し」というのは、一般的には良くしていくという意味で捉えられると思うが、路線バスの利用者が少ないという現状から抜本的にバス路線を少なくするというのか。
- ◇ 計画の太い柱がどういう方向性でいくのかについて、一つは「江差マース」を既存交通の補完を行いながら成功していくということになるかと思うが、一方で、路線バスについても5年間の計画の中でこういう風になるという太い柱を抜本的な見直し策として出していくということなのか。
- ◇ 「江差マース」を5年間でどういう段階でどういう風にしていくのかという部分は、計画本体ではどこまで打ち出されるのか。
- ◇ 具体的には、来年度以降、全体といわず一部からでも今の実証から本格的な交通手段とすて組み立てていくということも考えているのか。

①-2 (事務局)

- ◇ 「民間バス路線の抜本的な見直し」の部分について、住民からは運行するダイヤや経路を見直ししてほしいという意見が様々出てきている中で、いかに実際の運行に対して意見を反映していくのかということであるが、一方で江差町を通過するバス路線については、江差町内だけではなく他の地域の通過・接続部分についても考えていく必要があるため、ここでは単町の都合だけで便数を減らすだとか廃止していくという意味合いではない。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

- ◇ 今後も住民の利用状況を見ながら、利用者数の拡大に向けて見直しを図っていく必要があることから「抜本的な見直し」という書き方にさせていただいたが、この表現が行政計画としてまとめていくものとして不適切ということであれば、計画本体での記載を変更することを検討させていただく。
- ◇ 計画内での「江差マース」の位置付けがどのように整理されていくかについて、既存の交通施策であるスクールバスや高齢者半額助成などと併せて、今後の具体的な取り組み内容や年度ごとのスケジュール感をまとめていく想定としている。
- ◇ 「江差マース」については、現在実証実験を行っている最中であることから、現在の内容をそのまま来年度本格運行していくのか、見直しを図った上でいつ頃から本格運行していくのかなどを、実証実験の結果を踏まえながら計画内で来年3月の時点での一定の方向性としてお示しさせていただく。
- ◇ 一方で、計画策定後においても、その時々状況に応じて内容の見直しを図っていくことで想定している。

①-3 (田畑会長)

- ◇ 只今、小野寺委員よりご指摘のあった「民間バス路線の抜本的な見直し」については、検討の余地があるものと感じた。
- ◇ 地域公共計画は江差町だけでなく、乙部、厚沢部、上ノ国といった近隣町においても単独で策定予定とする動きとなっている。
- ◇ バス路線については、南が丘を例にとると、椴川町・江差ターミナルから走ってきて、海岸線を通って柳崎町まで行く路線もあれば、五勝手から南が丘に上がっていく路線もあったりと、一つ一つのバスの乗車密度というのはこれまで検証しづらかった部分であるが、今後検証していく必要がある。
- ◇ 将来的には、例えば路線経路が重複する部分を見直していくとか、町内を巡回する部分はバス路線を撤廃し「江差マース」に切り替えていくといった様々な検討策が考えられる中で、今後方向性を詰めていくことになるが、年度内にすぐ定まるという話ではないため、令和5年度については検証の部分がメインになり、近隣町とのやり取りも出てくるかと思う。
- ◇ いずれにしても、この「抜本的な見直し」の表現については改めて検討させていただく。

②-1 (内澤委員)

- ◇ 計画の概要版ではあるが、既存交通のこと、新しい交通モードのことが細部にわたって踏み込んでいるように見受けられ、今後の肉付けで良い計画になっていくものと感じるので、交通事業者を代表し感謝を申し上げたい。
- ◇ 一方で、計画策定にあたり、大前提として抜本的な課題に挙げられるのが輸送資源の確保の部分で特に乗務員不足となっている。
- ◇ 乗務員不足は大きな課題となっており、どんなに良い計画を策定しても乗務員がいなければ、言葉は悪いが企画倒れとなってしまう、計画事業を遂行できない事態とすることが予想されるところ。
- ◇ 人的支援の観点で、この乗務員不足に関する内容を計画内に反映いただきたい。
- ◇ ただ単純にお金で人的支援の確保ということではなく、過去に道新などで幼いころの夢がバスの運転手になりたいという記事があったように、乗務員の魅力というものをお示しできる場であったり、公共交通の教室のようなもので何かお披露目できる場の提供という観点で、教育委員会などを含めて積極的に取り上げていただきたいと思っている。
- ◇ このコロナ禍の疲弊により、残念ながらこの道南においても貸切バス事業の撤退や事業縮小が深刻になっているので、このままだと公共交通の継続・持続可能性が難しいと感じている。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

- ◇ 自動運転についても、実現性の部分でこの先何十年は来ないだろうというのが我々交通事業者の見立てである。
- ◇ やはり有人運転というところが基本になってくるかと思うので、ぜひ人的支援の部分も計画にも盛り込んでいただきたい。

②-2 (事務局)

- ◇ ご発言のあったとおり、地域で限られた資源をいかにして最大限使っていけるかは、「江差マース」にしても、路線バスやタクシーといった既存交通にも大きく関係してくる話になってくる。
- ◇ 人的な部分はもちろんのこと、資金的な観点においても、現在当町の交通施策予算が年間6千万弱となっており、この部分の見直し・効率化が今後様々な取り組みを進めていく上では重要な課題であると認識しているので、計画内でも位置付けていきたいと考えている。
- ◇ 乗務員の魅力発信の観点では、今年、江差高校で始まった南檜山学という講座で函館バス様の業務内容やバスの乗車方法についての紹介を、役場と函館バス様との協働で実施したが、来年度以降についても、細部まで調整が済んでいる訳ではないものの、高校生に対する取り組みを継続しつつ、地域の小学生や中学生にも公共交通と触れ合う機会を、江差高校との連携で取り組んでいけないう模索しており、実施にあたっては協議会事務局である役場まちづくり推進課だけでなく、教育委員会や交通事業者にもご協力をいただきながら実行にうつしていくことになるかと思う。
- ◇ 地域の子どもたちとの取り組みについても、計画内で位置付けていくことを今後検討していきたいので、内容が固まり次第、改めてご意見を頂戴したいと考える。

③-1 (田畑会長)

- ◇ 本日は概要版に関しての説明であったが、概要版の内容を中心に盛り込まれた計画本体の送り込みや次回の協議会開催時期についてを、事務局側からご教示いただいてよろしいか。

③-2 (事務局)

- ◇ 次回の協議会は、来年の1月下旬から2月上旬頃を予定しており、その場で計画本体の概要説明をさせていただきたいと考えている。
- ◇ 時間の都合上、会議の中で計画全ての説明と一つ一つの項目に対しての意見をいただくことは困難であるため、会議後、一定期間設けながら、その期間の中で委員の皆様にお目通しいただき、各委員からのご意見を書面でいただく想定としている。
- ◇ 最終的には、各方面からいただくご意見を反映したものを、成案として委員の皆様にお示ししていくので、年度内の策定に向けて少しばかりタイトなスケジュールになるがご協力をお願いしたい。

③-3 (田畑会長)

- ◇ 会議の時間だけでの意見収集という話には当然ながらならないので、後日書面で委員の皆様から意見を頂戴する、こういう形をとっていく方向ですので、改めてにはなるがよろしくをお願いしたい。

(3) その他

- 田畑会長から各委員へ全体を通しての意見等を求め、次のとおり意見あり。

①-1 (内澤委員)

- ◇ 先日、西鉄グループ企業の社長様がお見えになった際にお話しがあったのが、西鉄ではMaaS（マース）を先行して実施している事業者であるが、地域に定着するまでに6年かかったとおっしゃられていた。

江差町地域公共交通活性化協議会 議事録

議事要旨

- ◇ 取り組みの推進にあたり数値目標を立てていく中で、公共交通の定着や告知を含めて考えると、すぐ来年には目標達成というのは中々難しいことが予想されるので、こういった事業は5～6年の長い目で見なければならぬ。
- ◇ 自治体には申し訳ないが、ぜひ江差町には決意と覚悟をもっていただき、事業者のみではできる事業では決してないので、ご負担は承知の上よろしくお願ひしたいと思う。

①－２（田畑会長）

- ◇ おっしゃるとおりで、計画をつくってすぐに初年度から目標達成というのは中々難しい話。
- ◇ スクールバスや路線バスなどの町交通施策に対して、年間約6千万弱の予算を組んでいるが、効率化を図れる部分の検討は、何年度になるか現時点では未定であるものの、しっかりと手を付けていかなければならぬ。
- ◇ 町内で効率的に運行していくのかは、単純に便数を増やせばいいということにも当然ならぬ。
- ◇ 今回の実証実験については、国交省や経産省の支援をいただきながら実施しているところであるが、使い勝手の良いものをどのようにして浸透していくのかは、行政の力だけでは進められるものではないので、町内会などのお力をいただきたいと考える。
- ◇ 自家用車が便利な世の中ではあるが、地域公共交通計画は重要な計画の一つとなるので、この法定協議会を中心に進めていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

4. 閉 会

■ 田畑会長から閉会挨拶と併せて、次のとおり補足案内あり。

- ◇ 次回の協議会は、事務局から説明のあったとおり、来年の1月下旬から2月上旬頃を目途に開催する予定であるため、委員の皆様におかれてはご出席賜るようよろしくお願ひする。
- ◇ 加えて、次回の会議では、本協議会の構成員である福祉有償運送事業者による道路運送法の登録更新についてを協議事項としてお諮りする予定。
- ◇ 対象となる事業者におかれては、申請書類のご用意など登録更新に向けたご準備を進めていただくようよろしくお願ひする。

以上により閉会